

平時からの住民への情報提供

資料 2 - 3

○県の方針（「茨城県地域防災計画（原子力災害対策計画編）」から抜粋）

第2章 原子力災害事前対策

第15節 住民に対する防災知識の普及

県及び所在・関係周辺市町村は、**原子力災害の特殊性を考慮し、県民や住民に対して、平素から原子力の基礎知識及び防災対策に関する次に掲げる事項**について、わかりやすく記述したパンフレット、ハンドブック、副読本、ビデオ、ホームページ等を作成し、**積極的に防災知識の普及に努める。**

その際、県及び所在・関係周辺市町村は、学校等とも連携し、総合的な学習の時間の活用など学校における知識の普及に努めるとともに、高齢者、障害者、乳幼児等の要配慮者へ十分に配慮して広報を行うものとする。

ア 原子力施設の概要

イ 原子力施設の安全確保

ウ 放射性物質、放射線の性質

エ 放射線による健康への影響

オ 環境放射線モニタリング

カ 原子力災害時の住民への広報手段

キ 原子力災害時に県等が講じる防災対策の内容、その意味

ク 原子力災害時に住民が取るべき行動、留意すべき事項

（避難等の方法や経路、避難先の連絡、避難開始時期、自主避難、交通規制が実施された場合の車両の運転者の義務等）

ケ 地区毎の住民のための一時集合所・避難所

コ 安定ヨウ素剤の効果、副作用

原子力・放射線の基礎知識

原子力防災対策に関する事項

平時からの住民への情報提供

○取組状況

※主に触れている場合は「○」
一部触れている場合は「△」
全く触れていない場合は「－」

媒体	手法	対象者	頻度	広報の内容※		広報の概要
				原子力・放射線の基礎知識 (前ページのA～オ)	原子力防災 (前ページのカ～コ)	
原子力広報いばらき (全県版)	広報紙	一般家庭	年2回程度 発行部数：75万部	△	△	東海第二発電所の安全性の検証状況の周知
原子力広報いばらき (PAZ・UPZ版)		PAZ・UPZ内の一般家庭	年2回程度 発行部数：28万部	－	○	避難計画の検討状況の周知
原子力ハンドブック	冊子	一般家庭	年1回 (発行部数) ・日本語：約1万部 ・外国語：約2千部	○	△	放射線や原子力基礎知識や、原子力に対する安全・防災対策の周知
原子力とエネルギーブック	電子書籍	学生 (小・中・高校)	年1回	○	△	学生に対し、放射線や原子力の基礎知識や現在のエネルギー事情を解説
原子力と放射線の基礎知識普及・啓発講座	講座	団体	年20回程度	○	△	住民向けに、専門家が原子力と放射線の基礎知識に係る内容を解説
ラジオ等を媒体とする原子力広報	放送	一般家庭	年20日	○	△	住民からの原子力と放射線への疑問等に音声や動画で解説
学校への専門家派遣事業	授業	学生 (小・中・高校)	年30回程度	○	－	小・中・高校において、原子力や放射線に関する実験や講座を実施
ホームページ	Web	一般家庭	随時	○	○	広報紙や原子力防災に係る県の取組をホームページ上でも公開
原子力科学館 ※公益社団法人 茨城原子力協議会が運営	展示	一般家庭	常時	○	－	放射線と原子力についての知識を体験しながら学べる資料を展示

(参考) 各広報媒体の概要①

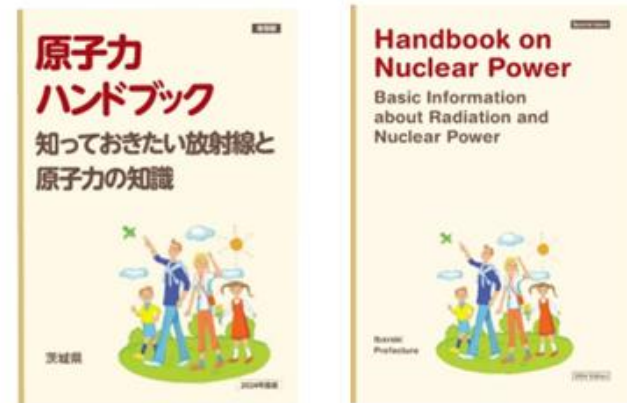
○原子力広報いばらき（全県版、PAZ・UPZ版）

- ▶ 住民向けに、東海第二発電所の安全性の検証状況と、避難計画の策定状況を周知する広報紙を発行
- ▶ 発行回数…年間2回程度



○原子力ハンドブック

- ▶ 住民向けに、放射線や原子力基礎知識や、原子力に対する安全・防災対策をわかりやすく解説する冊子を発行
- ▶ 発行部数…約10,000部（日本語版）、約2,000部（英語版）



○原子力とエネルギーブック

- ▶ 学生向けに、放射線や原子力の基礎知識や現在のエネルギー事情を解説する電子書籍を発行



○原子力と放射線の基礎知識普及・啓発講座

- ▶ 住民向けに、専門家が原子力と放射線の基礎知識に係る内容を解説する講座を開催
- ▶ 実施回数…年間20回程度
- ▶ 参加人数…約2,500人



(参考) 各広報媒体の概要②

○ラジオ等を媒体とする原子力広報

- 住民からの原子力と放射線への疑問等に、ラジオ放送やYouTube動画で解説
- 実施回数…年間20回



○学校への専門家派遣事業

- 小・中・高校において、原子力や放射線に関する実験や講座を実施
- 実施回数…年間20回程度
- 参加人数…約1,500人



○県ホームページ

- 県で発行した広報紙等や原子力防災に係る県の取組を掲載



○原子力科学館

※公益社団法人 茨城原子力協議会が運営（東海村）

- 放射線と原子力についての知識を体験しながら学べる資料を展示
- 令和7年3月に展示物をリニューアル



平時からの住民への情報提供

○今後の取組

広報の内容		目指す方向性
放射線の基礎知識	原子力防災の知識	
[冊子] - 原子力広報いばらき（全県版） - 原子力ハンドブック [対面] - 原子力と放射線の基礎知識普及・啓発講座 - 原子力とエネルギーブック - 学校への専門家派遣事業 [放送] - ラジオ等を媒体とする原子力広報 [展示] - 原子力科学館	PAZ・UPZ内の住民 [冊子] 原子力広報いばらき（PAZ・UPZ版） ※避難計画策定の取組状況が中心	災害時にとるべき行動（避難か屋内退避か等）についての更なる理解の促進
	UPZ外の住民 今後重点的に取り組む分野	原子力災害時の防護措置（UPZ外は防護措置が原則必要ないこと等）についての更なる理解の促進



- 現状の広報は、放射線の基礎知識の普及に係る内容が中心であるが、災害時の避難行動等の**原子力防災に関する広報にも注力し、緊急時の避難行動について住民の理解を深めていく。**
- 既存の媒体（冊子・対面）を活用した広報事業に加え、**Web・アプリ等を活用した広報の充実・強化**により、UPZ外の住民を含め原子力防災についてのさらなる理解促進を図る。